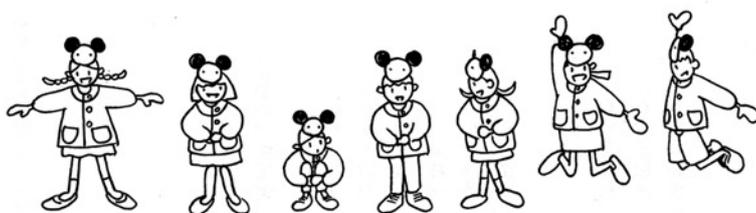


# だ み よ く り に

No.732 令和4年12月1日発行



## 温かな手と手を繋いで

黄色、橙色、赤、黄緑……街路樹のモミジバフウの落ち葉が賑やかに感じます。小さい頃、その落ち葉を踏んで「サクッ」と音がするのを楽しんでいたのを思い出します。今年は11月中旬から急に気温が下がりましたので、体がついていくのが大変でした。体調変わりありませんか。

先日、あるクラスの子どもたちと散歩に行きました。今回は自分たちが住んでいる街を知ろうということで、国道6号線をぐるりと渡るコース。お店、車屋、美容室、学校を見てきました。その中で一番盛り上がったのは、国道に架かる陸橋でのことです。橋の手摺の隙間から車の往来を見ていると、心がほっこりすることが起きるのです。何だと思いませんか。わたしもここ数年、子どもたちと散歩に行くようになってから知りました。それは、信号待ちをしている運転手さんが子どもたちに手を振ってくれるのです。1台、2台ではありません。子どもたちは大喜びですし、運転手さんも笑顔のように感じます。嫌なニュースが目につく世の中ですが、このような温かなこともあるのです。今年最後の園だより、温かい話で締めましょう。

さて、わたしたち保育者は「振り返り」が欠かせません。「今日こうだった、明日はこうしよう」と毎日、反省考察。そして一年を振り返る度に思うことがあります。保育者は色々な職業になるということ。普段は先生、ピアノを弾くときは伴奏者、運動会では司会者、クリスマス会では舞台監督、時にはマジシャンに警察官。それらに加え、今年は引っ越し屋、不要品回収屋にもなりました。もちろん保育者としての立ち居振舞いの中でのことではありますが、子どもたちと過ごす中で、さまざま

な経験をさせてもらっています。このような職業はなかなかないのではないのでしょうか。このかけがえのない職に誇りを感じます。子どもたちにとってはどんな一年だったでしょう。数年後、数十年後に「たのしい子ども時代だった」と想いを馳せてもらえたら本望です。

二学期は次年度の入園説明会を合計12回行いました。園のことを伝える場ですので、みくに学園が大切にしていることを改めて感じる機会になります。ここで一つ、みくに学園に園バスがない理由。手を繋いで歩くことができるのは幼いうちの数年間です。自立しはじめると、親子で手を繋ぐことが少なくなります。手を繋ぐと心が安定しますね。「ご家庭から園までの数分間、お子さまの温もりを感じてほしい、情緒の安定に繋げてほしい、会話してもらいたい」。そういう想いからです。また、小学一年生になった時、急に一人で道路を歩くのは危険です。「親子で手を繋いで歩きながら、就学に向けて、交通ルールを知らせてほしい」という想いもあります。そこで、ぜひ、買い物や公園に出かける際など……お子さまと手を繋ぐことを意識されてみてはいかがでしょうか。「今」しかない「今」だからこそ、感じられる温もりがあると思います。

穏やかな園の日常。これも保護者の皆さまのご理解とご協力のお陰と、心より感謝しております。来年も一日一日を丁寧に過ごしてまいります。年末年始はいつもの忙しさから少しでも解放され、ゆっくり過ごすことができますか。寒さが本格的になりますので、どうかお体に気をつけて、体も心も温かい時間をお過ごしください。工事で大変な一年でしたが、穏やかな園の日常とともに年末を迎えられそうです。